

大麦栽培管理情報(第3号)

平成 29 年 3 月
アルプス農協管内農業技術者協議会

本年産の大麦圃場は、概ね適正な葉色が維持されていますが、排水不良により葉色が薄い圃場も散見されます。

排水溝の点検・手直しを必ず実施し、水が溜らないようにし、根の活力を高めましょう。また、分施体系で栽培している場合は、生育の回復と穂数の確保のため、消雪後追肥を遅れずに行いましょう。

1 排水溝の点検・手直し

圃場内に水が溜ると、湿害で根が傷みます。

そのため、下葉が枯れ上がるなど葉色が低下し、穂数が少なくなります。

うねや枕地などから停滞水を排除するため、排水溝の点検・手直しや深く掘り下げた排水口への確実な連結など、排水対策を徹底しましょう。



この時期の排水対策が収量確保に大きく影響します！排水対策を徹底しましょう。



2 消雪後追肥（分施体系のみ）

この時期の追肥は、大麦の生育を回復させ、適正な茎数や穂数を確保するために重要です。

分施体系で栽培している場合は、一時的な雪が予想される場合でも、晴れ間を見て、消雪した圃場から速やかに追肥しましょう。

施用時期	肥料名	施用量
消雪後 (幼穂長3～4mmを目安に)	硫安	20kg/10a

注1: ただし、生育が旺盛な場合は減肥してください。

注2: 肥効調節型(基肥一発)肥料を施用した圃場では、今後、肥料成分が溶出するので、追肥の必要はありません。